

## 会 議 記 録

|        |  |
|--------|--|
| 会議名称   | 第6回杉並区社会教育委員の会議  |
| 日 時    | 令和6年7月12日（金）午後3時01分～午後5時05分  |
| 場 所    | 東棟6階 教育委員会室  |
| 出席者    | 委員<br>諸橋、宮内、檜枝、南、青木、天野、荻上、内山、笹井<br>区側<br>生涯学習推進課長、学校支援課長、社会教育センター所長、管理係長、社会教育推進担当係長（社会教育主事）、社会教育センター社会教育推進担当係長（社会教育主事）、社会教育センター社会教育主事  |
| 配付資料   | <p>&lt;配布資料&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 第5回社会教育委員の会議記録</li> <li>2 中央教育審議会諮問資料</li> <li>3 議長講義資料</li> </ol> <p>&lt;参考資料&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学び合いのワークショップ「地域活動のリアル」チラシ</li> <li>2 すぎなみ大人塾 すぎなみU30 ミーティング 2023 記録集</li> <li>3 すぎなみ大人塾はじめの一步コース「わくわくから始まる大人の放課後デビュー」チラシ</li> <li>4 すぎなみ大人塾総合コース「フツウってなんだ？」チラシ</li> <li>5 夏休み子ども向け催し情報カレンダー</li> <li>6 「フューチャーサイエンスクラブ」チラシ</li> <li>7 「杉並の高校野球熱湯の軌跡―“幻”の大会から令和の大会まで―」展示チラシ</li> <li>8 IMAGINUS 広報紙イマジナスニュース Vo1.06</li> <li>9 「親子でサイエンス」7～8月開催イベントチラシ</li> <li>10 「学研 科学と学習ふろく展」チラシ</li> <li>11 大人と子ども、地域と学校をつなげる、地域発＜教育情報誌＞なみすく 2024年夏号</li> </ol> |
| 会議次第   | <p>I 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会教育主事の募集について</li> </ol> <p>II 協議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 議長講義「ウェルビーイングと社会教育」</li> <li>2 今期の検討課題「社会教育活動への支援のあり方について」について</li> </ol> <p>III その他</p>   |
| (意見要旨) |  |

- 議長 只今から会議を始めます。課長からご挨拶をお願いします。
- 生涯学習推進課長 前回、地方での人と地域のつながりについてお話がありました。明日から盆入りする杉並辺りでも行事を通じて地域のつながりが今も続いているところがあります。
- 今日はウェルビーイングと社会教育について議長にご講義いただいた後、皆様からご意見を頂戴します。私も勉強させていただきたいと思います。本日もよろしく願いいたします。
- 議長 ありがとうございます。資料の確認をお願いします。
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） （資料確認）
- 議長 続きまして、報告事項をお願いします。
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） （社会教育主事の募集について報告）
- 議長 社会教育主事の採用に感心しています。社会教育型センスというのか、ファシリテーションやコーディネーションのスキルはどの行政分野でも必要になってきていると思うので、活躍の場はいろいろあると思います。
- それでは、協議事項に入りますが、次第に講義と書いてあるように、40分ぐらいウェルビーイングと社会教育について、まずは話をさせていただきたいと思います。
- ウェルビーイングという言葉は本当によく聞く、よく目にする言葉です。なぜこういうことが言われるようになったのか。一番大きな理由は、社会的に定められた目的を達成することに意味がある、価値があるという目的的な生き方が明治以来の近代化を支えてきたけれども、それは本当なのかということが大きな理由だと私は考えています。
- 要するに上昇志向が子どもに転嫁されると学歴偏重社会になっていき、偏差値が高い学校に入ることが幸せな人生を送るために必要という、上昇志向の下でのライフデザインや生き方が今まで続けてきたわけですが、いろいろな理由で本当にそうなのかという疑念が徐々に浸透してきたのだと思います。
- 社会的に見れば、SDGs、サステナビリティ、持続可能という言葉が示すように、自分で自分の限界みたいなものを意識して、永続するような形で社会をつくっていかねばならないことが、いろいろな場面で求められるようになってきました。そうすると、高い目標を設定して、そのために苦勞するといった考え方や生き方に違和感を持つのです。経済的にも90年代後半から停滞の時代が続いており、これまでの考え方や生き方を見直さなければならぬと、多くの日本人が考えていると思います。
- そういう大きな流れとして社会的トレンドであるということが一つあります。もう一つは「個の時代」と書きましたが、社会的に流されないで、自分で取捨選択し、人生を生きていきたいという人が増えているということです。これは、ややもすると孤立・孤独と裏腹の問題ですが、個人の主体性や自立性がとても大事な時代になっているということです。もちろんVUCAと言われる不確実、曖昧な時代にあることは企業も同じです。成長一辺倒ではまずいと考え始め、生きることは幸せを求めることでもあるので、自分にとっての幸せは何か問い直しをする方向にきているわけです。そうした中で、ウェルビーイングが言われているのだろうと思います。
- それから、ミクロからマクロへという物の見方や視点の置き方も背景にあると思います。アカデミズムの分かりやすいものが教育で言えば普通教育で

す。普通教育では概念設定をして体系的に分かりやすく教えますが、社会教育では人とやりとりをしながら感じたり思ったりしたことから気づきや学びを得ます。概念を具体化していく中で知性を身に付けることも大事ですが、初めに何かありきではなく、人は日々の生活の中の実践や活動から気づきや体験を重ねることで学んでいくように思えてしょうがないのです。

これは企業活動でも同じで、イノベーションと言います。イノベーションは大きな構造の中からは出てきません。現場での失敗やひよんなことから生まれるのです。

個人やミクロな事象、現象、活動は、社会的にとっても意味を持ってきていると思います。あまり意識されていないのかもしれないけれど、そういう認識が人それぞれ違うウェルビーイングに結びついていると思います。

実は、ウェルビーイングについては、昨年度、内閣府が「満足度・生活の質に関する調査」を行っています。家計や資産、住宅、健康など、これが満足だったら幸せだろうと一般的に思われる13分野別の質問が挙げられています。概ねそうだろうなと思うのですが、主観的なウェルビーイングというと、個人によって違うと思いますし、自分を取り巻く社会的な環境整備としての満足度と、自分自身の精神的・内面的な満足度は少し違うと私は思っています。

心理学の分野では、M. セリグマン教授がPERMA理論においてウェルビーイングの事項に次のことをあげています。ポジティブな感情を持つこと。帰属する集団があり、仲間から承認を受け信頼関係を築いている環境や人間関係があること。人のために何かやっているという利他の精神と、それによる充実感や自己実現を得ること。

慶應義塾大学の前野隆司先生が仰っているのは「やってみよう」「ありがとう」「なんとかなる」「ありのままに」という因子や気持ちが幸福感を持つということです。

もう一つ用意している資料は、高知県にある佐川町の総合計画で、とてもよくできています。町民に今ウェルビーイングの状態かどうかを聞きながら、地域に課題はないか、幸せな気持ちになるのを妨げていることはないかを尋ね、課題があればその課題を直すようなことが計画に書かれています。課題の見つけ方がウェルビーイングの視点からとても面白いのです。

このように、地域の個性と課題をウェルビーイングの視点から明らかにすることが一つの活用策として考えられるわけですが、世代間のギャップを埋めていく活用の仕方もあるだろうと思います。

それで社会教育との関係ですが、生きることを共にする、一人の幸せをみんなで作るというのは、他人の課題、他人の困り事を自分の問題として捉えるということなのです。ここにウェルビーイングの状態じゃない人がいたとして、何ができるか、何がみんなのウェルビーイングになるのか、関わり合いのプロセスの中でそれは生まれてくると思っていて、社会教育におけるウェルビーイングはこういう視点から考えていくべきだと思っています。ですから、個人がどう思うかや社会がどうなっているかはもちろん大事だと思いますが、つながりの中で自分の問題として、あるいは組織が組織の問題として捉えているかどうかということから進めていくのが、ウェルビーイングの中身を膨らませていくことにつながると思っています。

ではここで、福祉に関わる社会教育士の動画を見ていただこうと思います。

( 動画上映 )

○議長 すごく示唆のある動画だと思って見ていただきました。結局、社会教育はつながりとか関わり合いが本質的に大事な部分なので、その中でウェルビーイング、みんなが幸せで満足に生きていけるようなことを見出すことがとても大事だと思います。

私からの発表はこれで終わりにしたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

( 拍手 )

○議長 今話を参考に、皆さんからいろいろな話をお聞きしたいと思います。どなたからでもどうぞ。

○委員 社会教育活動への支援のあり方について議長のイメージを伺いたいです。一緒に生きるとか幸せはみんなで作るといったお話がありましたが、「支援」というと、する側とされる側をイメージしてしまいます。

○議長 社会教育はボランティアです。支援という言葉は基本的に持てる者が持たざる者にサポートすることを思い起こさせるので、実は私は支援という言葉が嫌いです。あえて言うなら応援だと思います。住民一人一人のボランティアを担保する上で、寄り添うということがとても大事で、ファシリテーション、コーディネートも、主体は学習者です。それだから社会教育行政は難しいのです。自分でイニシアチブを取れない。あくまでも脇役です。社会教育は、この脇役が調整したり促進したりすると考えているのです。

○委員 社会教育は社会を支える一番大切な根幹だとずっと思っています。

○委員 「みんなで創る」を実行しようと思うと、すごくミクロな、身近なところから出発しないと絵に描いた餅になってしまいます。日常の生活から概念が構築され、大きな物語につながっていく感じがします。こうした思いが区民の間に広がっていくと、より住みやすい地域になっていくと思います。

○委員 感想です。生きることを共にすることと、好奇心から活動することとは両輪だと思います。「楽しいからやろう」は余暇活動的に見えやすいですが、手を差し伸べられたことがあるかどうかで共生の感覚を持てるかどうか違うように思います。個の時代、どう生き延びていくかに目を向けがちですが、自分が地域で生きやすくなるための助けの一つとして社会教育を見てもらうことが希望になると思いました。

○委員 私は、学校教育が終わってもそのさらに先まで教育が続くことを信じられる世の中になっていくことを目指したいです。学校が義務教育だけではなく社会教育の拠点になるようにできないかと思っていて、学校教育で使わない時間を、地域の人と子どもたちが出会う時間にできればと思っています。

震災救援所の会議も、地域防災という軸で地域の人が準備する過程を社会教育的に進めることで、緩やかに社会教育的な感覚が醸成され、広がっていくように思います。地域防災という軸があることも、社会教育が余裕ある人の余暇活動と見られない要素として大切だと思います。

○議長 自分の実践の出発点になることが社会教育だから、人が集まるということが大事です。集まって刺激し合う中でエンジンがかかる人もいます。そこに専門職員が関わって建設的な話になればいいと思います。

○委員 それぞれの地域で課題がいろいろあって、どこかの誰かとつながれば何かできそうだけれども、じゃあどうやってつながるのか。スモールコミュニティの中でスモールトークはできても、愚痴を言って終わってしまいがち

です。課題解決のためのつながりとか建設的な話というのが難しく、上手くまとめられずに、どうしようとなっているのを感じています。

- 委員 議長のお話から個々のウェルビーイングにフォーカスするより、困った人がいたらいかにつながりを使って支えていくかということが大事なのだと思いました。佐川町の「土スコア」という観点は行政にとっても重要です。風スコアの「やってみよう」という因子は「得意なことがある」「自分がやってみようと思ったことが何とかなると思える」や、その人らしさにつながっているように感じます。
- 委員 実は今モヤモヤを感じています。「幸せ圧」のようなものを感じてしまうのは何故だろうと考えていました。ウェルビーイングと社会教育との関係はどう捉えていくかが、改めて難しいと思いました。社会教育も幸せ圧につながるといけないという思いです。この五つの視点も、曖昧で固定されていないところが大事と思い、社会教育は、学校教育に比べると曖昧さが大事だと改めて思いました。
- 委員 幸せを目指さなくてもいいじゃないかという意味ですか？
- 委員 ウェルビーイングは、あくまでもビーイングなので何でもいいのと思いますが、幸せという言葉には、どこかに向かっているかのような目的的な響きを感じてしまうところが自分にはあります。そう感じない方や、ものすごく多様性を認める意味での使い方でしたらいいと思います。
- 委員 人間の心にはヒダがあって一人ひとりみんな違いますし、一日の中でも朝昼晩で気分が変わりますから、同じことがあったとしても感じ方が違います。それで思うのですが、どんなに小さなことでも迷って決められない、誰かに相談したいという瞬間が誰にでもあるはずですよ。いろいろなことを話せる相手とか場があったら、きっと心が穏やかになって素敵な社会になるだろうなと思います。
- 議長 今、親密性の研究が盛んになっています。親密な人が集まる関係性とそうではない他人との関係性のギャップが大きくて、程よい距離感の程よいコミュニケーションが、社会全体で少なくなっているような気がします。一昔前の地域の教育力、斜めの関係で子どもに接してくれる大人が少なくなっているのと同じように思います。
- 委員 コミュニケーションの結果より、その過程がどれだけ充実しているかがウェルビーイングなのではないでしょうか。
- 議長 そろそろ時間です。今日もどんどん、意見を頂きましてありがとうございます。では、最後に課長からよろしくお願いします。
- 生涯学習推進課長 本日も貴重なご意見を頂きまして、ありがとうございます。人間、一人では生きられないというのが、この間私が考えているところでございまして、社会教育におけるウェルビーイングは、やはりつながりであると思います。地縁的な既存の仕組みが崩れている都会の中で、つながりをどのように再構築していくのか、改めて課題認識をしているところです。引き続き、よろしくお願ひいたします。
- 議長 ありがとうございます。これで閉会とします。